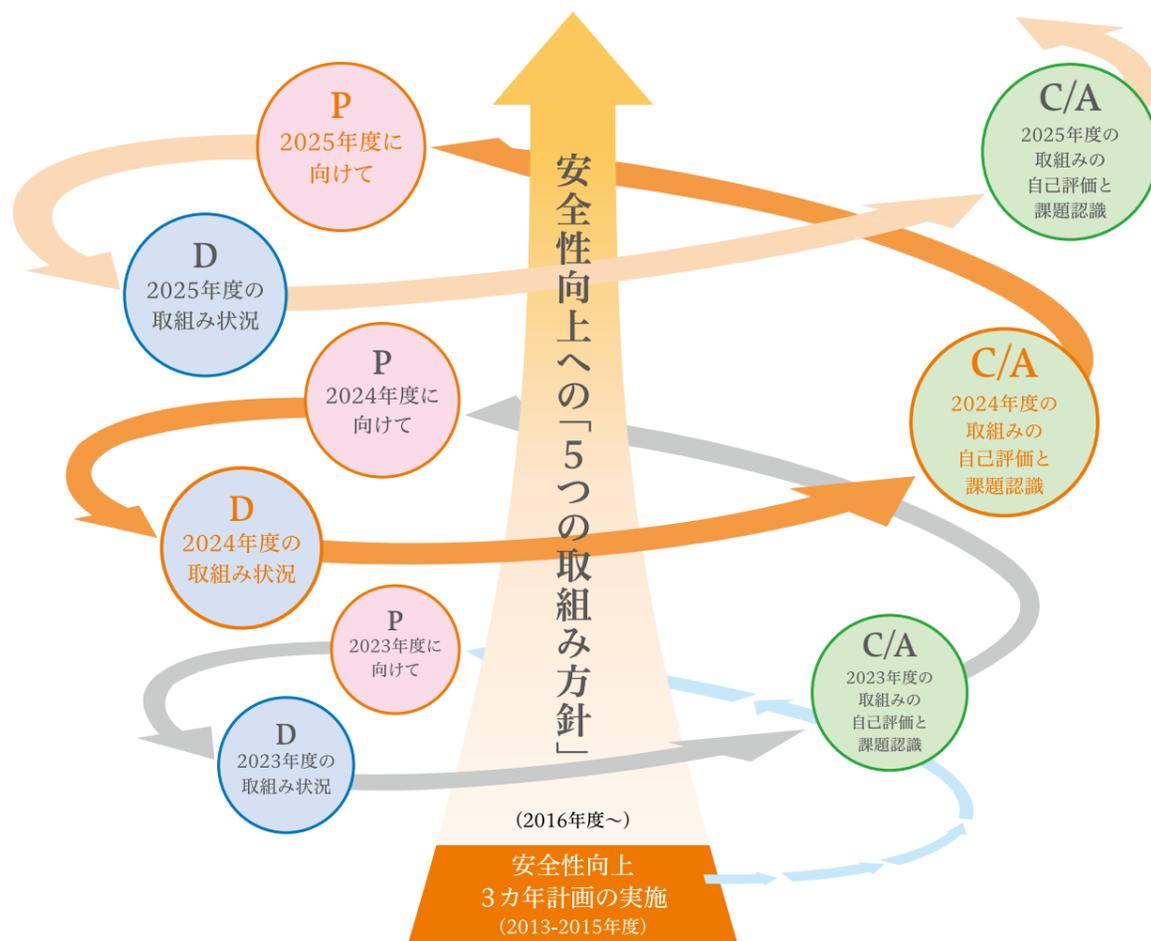


# 1 安全性向上に向けた 不断の取組みの深化

私たちは、2012年12月2日に引き起こした笹子トンネル天井板崩落事故を決して忘れず、お客さまに安全な高速道路空間を提供し続けることこそ、最大の使命であるとの強い決意のもと、安全性向上への「5つの取組み方針」に基づく不断の取組みを、PDCAサイクルを着実に実践しながら深化させていきます。

## 安全性向上への不断の取組みの深化 (課題の解決に向けて)



### 達成目標

安全意識の更なる醸成	グループ全体で安全意識を更に深化させ、安全を最優先にあらゆる事業を推進します。
------------	-----------------------------------------

2012年12月2日、当社の管理する中央自動車道 笹子トンネル(上り線)における天井板崩落事故により、9名もの尊い命が失われ、多くの方々が被害に遭われました。お亡くなりになられた皆さま、ご遺族の皆さまに対しまして、深くお詫び申し上げますとともに、お亡くなりになられた皆さまのご冥福を心からお祈りいたします。

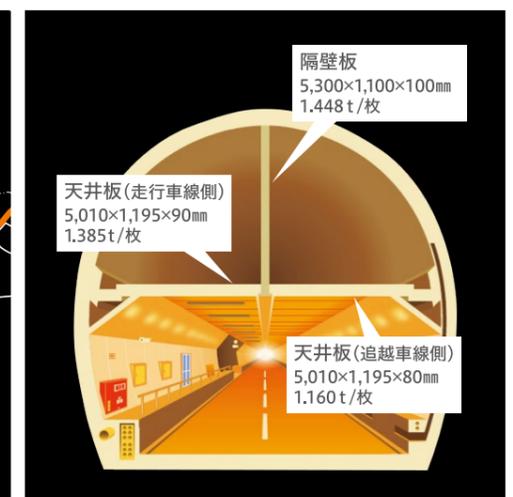
また、事故によってお怪我をされた皆さまや、ご迷惑をおかけした皆さまに心からお詫び申し上げます。私たちは、事故を引き起こした責任を重く受け止め、「二度とこのような事故を起こしてはならない」という深い反省と強い決意のもと、ご遺族の皆さま、被害に遭われた皆さまに真摯に対応するとともに、グループを挙げて、安全文化の醸成、潜在的リスクへの対応、安全を長期的に確保していくためのハード面の施策など、高速道路の安全性向上という永遠の挑戦課題に取り組んでいきます。

### 笹子トンネル天井板崩落事故について

発生日時	2012年(平成24年) 12月2日 日曜日 午前8時03分	発生場所	中央自動車道 笹子トンネル(上り線)内 (延長4.7km、大月JCT～勝沼IC間)
事故概要	笹子トンネル(上り線)の東京側坑口から約1.5km付近で、トンネル内の換気のために設置されていた天井板及び隔壁板などが約138mにわたり崩落し、走行中の車両3台が下敷きとなり、うち2台から火災が発生しました。		



位置図



トンネル概要図

当社は、笹子トンネル天井板崩落事故後直ちに安全に関する現状認識と問題点について幅広く検証を行い、再発防止に向けた取組み方針をまとめた「安全性向上に向けた取組み」を2013年2月1日に公表し、国の「トンネル天井板の落下事故に関する調査・検討委員会」報告書や外部有識者の意見も踏まえて策定した「安全性向上3カ年計画」(2013-2015年度)、「安全性向上への『5つの取組み方針』」(2016年度～)に基づき、グループを挙げて再発防止と安全性の向上に取り組んできました。

「経営計画チャレンジV(2021-2025)」においても引き続き「安全性向上に向けた不断の取組みの深化」を経営方針の最上位に位置付け、笹子トンネル天井板崩落事故を決して忘れず、お客さまに安全な高速道路空間を提供し続けることこそ、最大の使命であるとの強い決意のもと、「安全性向上への『5つの取組み方針』」に基づく不断の取組みを、PDCAサイクルを着実に実践しながら深化させていきます。

# 1 安全を最優先とする企業文化の醸成

当社グループ内の連携やコミュニケーションの充実により、安全を最優先とする価値観が共有され、自律的な行動を展開する企業文化を醸成します。

## 「安全の日」の取組みをはじめとした安全を最優先とする意識の浸透

12月2日を「安全の日」とし、追悼慰霊式を執り行うとともに、全職場で黙とう、安全行動指針の唱和、安全に関する職場討議などを実施しています。また、事故後に入社した社員が増加する中、支社ごとに整備した「安全を振り返る空間」では、安全啓発研修を補完し、日常的に社員が活用することで、笹子トンネル天井板崩落事故の尊い教訓を風化させず、一人ひとりの安全を最優先とする意識の更なる浸透に努めています。



慰霊碑の前での追悼慰霊式

## 経営陣と現場とのコミュニケーションの充実

経営陣は現場事務所をはじめ、すべての職場との「安全対話」を通じて、ご遺族の皆さまの思いを伝え、安全を最優先とする企業理念や基本姿勢の更なる浸透に努めています。また、経営会議を通じてメッセージを発信し、安全に関する自らの思いを伝えています。さらに、経営陣及び各職場の所属長は、社員が現場で抱える課題に対して具体的なメッセージを自らの言葉で語りかけ、具体的な行動につながることを意識したコミュニケーションを実践しています。



経営陣との安全対話

## 現場の課題解決に向けてグループ一体となったコミュニケーションの充実

各部門とグループ会社の経営層が情報や課題の共有を行う「安全に関するグループ連絡会」において、過去に発生した構造物の劣化や重大事象を踏まえた各部門での安全対策、グループ各社で作成している安全に関する要領やマニュアル類及び好事例を共有し、安全性向上に向けたコミュニケーション環境を整備しています。

また、各部門やグループ会社が共通認識を持ち、安全意識の更なる向上に努めながら、グループ一体となって現場で抱える課題の解決に取り組んでいます。



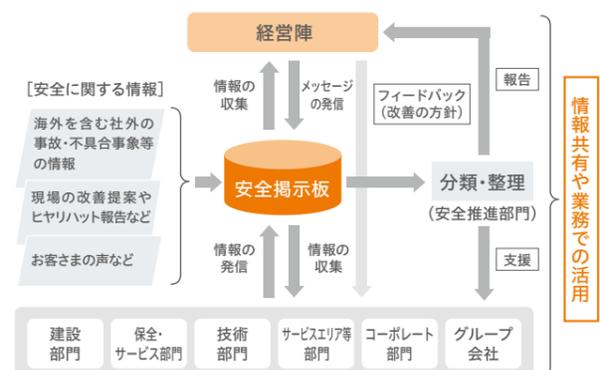
グループ連絡会での現場視察

## 自律的なリスクマネジメントの推進

当社はグループ会社と連携して、事業計画とリスク情報を見える化し、社員一人ひとりのリスク意識を高めるよう、各組織が自律的なリスクマネジメントに取り組んでいます。また、経営陣は社内の「リスクマネジメント委員会」で全社的な視点で課題と対応をモニタリングしています。

なお、社内外のリスク情報はグループポータルサイトにある「安全掲示板」に収集し、各職場にて業務に活用することができる環境を整備しています。

### 「安全掲示板」を活用した情報の収集・共有のイメージ



# 2 安全活動の推進

海外を含む社内外の安全に関する多様な情報の収集・共有や、最新の知見によるきめ細かな現場への支援・指導などに加え、社外の視点も取り入れ、組織横断的な安全活動を推進させます。

## 安全性向上の取組みのフォローアップ

安全性向上の取組みを社内に設置している「安全性向上委員会」で全社的な視点でチェック、フォローアップするとともに、社外の有識者で構成する「安全性向上有識者会議」に報告し、有識者からご意見や助言をいただき、改善を進めています。



安全性向上有識者会議

## 海外を含む社内外の安全に関する情報の収集・共有・活用

「安全掲示板」に海外を含む社内外の情報や社員からの提案、お客さまの声など、安全に関する情報を幅広く収集し、グループ内に共有しています。また、得られた好事例を含む情報を整理し「安全情報レポート」としてグループ全体に共有しています。

### 情報の収集・共有・活用(例)



車道側にあることで死角を生み出していた休憩施設のゴミ箱を建物側に移設した事例(写真左)を参考に、他のグループ会社においても設置箇所を見直した事例(写真右)

## 教訓や最新の知見による現場支援

安全文化を醸成するために、安全推進活動や内部監査の機会を活用して、グループ会社を含む現場組織を2年サイクルで巡回し、各組織における安全性向上の取組みを確認しアドバイスを行うとともに

に、好事例を収集してグループ全社員に共有しています。

### 安全文化醸成の好事例

- ・グループ間で連携し、現場を確認の上、より安全な工事規制の設置位置の見直しを行った取組み
- ・地元関係機関と訓練や意見交換を実施することで、路上作業の安全性向上や連携強化につなげる取組み



関係機関と合同でテロ対策訓練を実施した事例

- ・過去の重大事故や災害等の概要、対応方針を掲示し、残すことによって、事象を伝承する取組み
- ・「安全情報レポート」を用いて、安全に関する職場討議を実施する取組み

## 安全性向上の取組みの情報発信

道路法に基づく点検の実施状況や健全性の診断区分Ⅲ<sup>※</sup>の補修状況を公表するとともに、経営計画の達成目標や結果などを公表しています。また、企業や大学などへの安全に関する講演を通じて情報発信をしています。さらに、工事受注者へ当社の安全の取組みを説明するとともに、安全が工程やコストより優先することを伝えるなど「安全講話」を継続しています。

※構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態



受注者への「安全講話」

### 3 安全を支える人財の育成

安全を最優先し、強い責任感・意欲・誇りと、高い技術力をもって自ら考え行動する人財を育成します。

#### グループ一体となった安全を支える人財の育成

「人財育成マスタープラン」に基づき、各種研修を体系的、計画的に実施してプロフェッショナルの育成に努めています。また、各職場においてはグループ一体で若手社員の人財育成を推進しています。

#### 「褒める文化」の醸成

グループ全社員のモチベーション向上をめざし、優れた安全提案等を表彰しています。また、模範となる社員を褒める活動により、働きがいや達成感を高め、安全を最優先とする人財の育成に取り組んでいます。

#### 安全啓発館における安全教育

「事故から学ぶエリア」と「歴史から学ぶエリア」で構成した安全啓発館にて安全啓発研修を実施しています。笹子トンネル天井板崩落事故でお亡くなりになられた皆さまのご冥福をお祈りするとともに、事故を決して風化させず、二度とこのような事故を起こさないために、研修生自らが何をすべきかを考え行動につなげていく研修をグループ全社員が受講していきます。



安全啓発館(八王子支社敷地内)



「事故から学ぶエリア」での研修の様様

#### 社員の声

#### 「安全啓発研修」を受講して

おぎた はるか  
東京支社 厚木工事事務所 総務課 荻田 悠



私は、笹子トンネル天井板崩落事故が発生した年に入社しました。今回、研修であらためて事故について学び、ご遺族の方々の癒えることのない悲しみに触れ、二度とこのような事故を起こしてはならないと強く心に刻みました。今後もお客様の安全を最優先に、総務課として、風通しの良い職場づくりや職場環境を整えることで社員を支え、安全性向上に貢献していきます。また事故当時を知っている最後の世代として、これまでの経験を後輩に伝えていきます。

### 4 道路構造物等の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務プロセスの継続的改善

道路構造物等の経年劣化や潜在的リスクに対応した計画・実行・評価・改善のサイクルを着実に実践し、現場に根ざした業務の継続的改善を行います。

#### 業務プロセスの定着とPDCAサイクルの実践

道路構造物等の経年劣化や潜在的なリスクに対応するため、建設段階から管理段階までの業務プロセスを現場に定着させ、PDCAサイクルを着実に実践し、継続的な改善を図っています。

道路構造物等の安全や維持管理のしやすさに配慮した設計施工の推進に向け、維持管理段階で把握した課題を建設部門にフィードバックする「建設・保全合同会議」の取組みをグループ会社と一体となって継続しています。また、点検の判定会議等により道路構造物等の変状を判定し、健全度に応じた必要な措置を計画的に実施しています。

さらに、トンネルにおける火災事故等の重大事象に対応した防災訓練等の取組みを強化しています。

トンネル防災訓練(例)



警察、消防など関係機関との合同訓練

道路構造物等の補修(例)



鋼板橋橋端部の腐食補修

#### 道路構造物等のリスクに起因する事象の未然防止

「構造物のリスクに関する調査検討会」では、社内外の情報から潜在的リスクを洗い出し、道路構造物のリスクの低減に向けた対応を継続的に行っています。また、顕在化したリスクが再度潜在的リスクとならないよう、グループ会社と一体となり、過去から学ぶための事故や事象のデータベースを拡充していきます。

#### 安全に関する情報や最新の知見等の要領等への反映

「安全掲示板」に投稿された情報や最新の知見を設計要領等に反映し、安全性向上につなげています。

#### 点検・補修業務支援システム及び点検技術の高度化・効率化

道路構造物等の着実な点検・補修に向けて、「点検・補修業務支援システム」とデータ連携した「工事・保全情報の見える化システム」を活用しています。また、点検技術の高度化に向けた取組みをグループ一体で強化しています。



高速走行しながら路面性状を測定する「ロードタイガー」の小型化、機能強化

### 5 安全性向上に向けた着実かつ効率的な事業の推進

新たな技術の開発や導入、経営資源の効果的な投入などにより、幅広く安全性向上に向けた事業を推進します。

#### 「高速道路における安全・安心実施計画」の着実かつ効率的な実施

高速道路ネットワークの効果的・効率的な利用に向けて、2019年12月20日に「高速道路における安全・安心実施計画」を策定しました。本計画に基づく各施策を経営方針や主要施策に落とし込むことで着実に実施していきます。

また、事業を着実かつ効率的に実施するため、グループ全体の最適な役割分担、業務プロセスの改善、組織体制の構築などを行うとともに(P.58参照)、入札不調対策(P.59参照)及び労働災害の防止(P.59参照)などに取り組むことで、お客さまやお取引先も含めた安全性向上に努めていきます。



高速道路における安全・安心実施計画についてはこちらをご覧ください。

高速道路の安全性、信頼性や使いやすさを向上する具体施策	(4)ネットワークの信頼性の飛躍的向上 1)災害時の通行止め時間の最小化 2)工事規制の影響の最小化 3)冬期交通の確保
(1)暫定2車線区間の解消 1)計画的な4車線化の推進 2)暫定2車線区間の安全・安心確保	(5)利用者ニーズを踏まえた使いやすさの向上 1)休憩施設の使いやすさの改善 2)高速バスの利便性向上 3)訪日外国人旅行者への対応 4)スマートICなどによる地域とのアクセス強化 5)現地の交通状況に応じた交通運用
(2)自動運転などのイノベーションに対応した高速道路の進化 1)自動運転に対応した道路空間の基準などの整備 2)高速トラック輸送の効率化	(6)安全・安心を支えるその他の施策 1)料金施策 2)世界に誇る最先端の高速道路事業運営の実現による次世代の高速道路空間の創造(i-MOVEMENT)
(3)世界一安全な高速道路の実現 1)事故多発地点での集中的な対策 2)逆走対策 3)歩行者・自転車などの立入り対策	